

大阪高校春季テニス大会団体戦本戦会場で多くの方から、
熊本地震における熊本県内高校テニス部へ募金活動にご協
力をいただき心からお礼を申し上げます。

選手・保護者・テニスメーカーの方からご協力いただいた募金は
37,856円となりました

MT P 北村にて 2016年5月8日



募金箱

ファイト!

熊本



熊本地震における熊本県内高校テニス部へ募金のお願い

みなさんご存じの通り、熊本県では4月14日以降震度7を
観測する地震が2度も起こり大きな被害が発生しました。今も
余震が続き2万人弱の県民が避難生活を余儀なくされています。
被害を受けた地域にある高校は5月9日まで休校で、一部の高校
では授業の再開の目途がたない学校もあるようです。熊本県
高体連テニス部委員長の有吉先生から、熊本県内テニス部部員
の家が全壊や半壊の被害を受け、大変な状況にいる生徒も多く
いると報告を受けました。高校へ入学し、テニス部に入部しよ
うと思っていた生徒もテニスができる状況ではありません。
テニスコートにも被害を受け、インターハイの県予選の日程や
会場も現在、未定のようなのですが、この県大会を目標に練習して
きたテニス部員のためにも、大会開催の実現に向け準備をされ
ています。

そこで、みなさんと募金活動を行い、被災を受けている
熊本県内高校テニス部を応援したいと思います。

集まった募金は、熊本県高体連テニス部へ直接、送金します。
ご協力をお願いします。

大阪高等学校体育連盟テニス専門部

熊本県高体連テニス部からお礼のメールが届いています。是非、一読下さい。

大阪府高体連テニス専門部
専門委員長 阪本 龍一 様

前略

今回の震災に際して、貴府高体連テニス専門部で義援金を募っていただき、かくも多くの
方々が熊本県に対し思いを持っていただいていることに、心から感謝申し上げます。

連日のニュース等で本県の様子は伝わっていると拝察致します。今回の熊本地震は最大
震度7の揺れが三日のうちに二回連続して起こりました。私自身もそうでしたが、大地震の後
は余震が続くのは理解していたのですが、まさか2度目の揺れが1度目の揺れよりも大きな
ものになるとはゆめゆめ想像もしておりませんでした。「前震」「本震」という言葉も今回初めて
聞く言葉で、愕然とさせられたものです。同じ「震度7」ではありますが、2度目の「本震」は1
度目の前震よりも体感的には長く揺れ、印象としても本当に恐ろしいものでした。

この経験により「一度大きい揺れが来たから、もう大きな揺れはないだろう」という気持ちか
ら、「二度あることは三度あるのでは」という疑心暗鬼に陥り、余震の度に本震の記憶が甦り、
恐怖に陥っている状態です。避難所で過ごす方々、あるいはエコノミークラス症候群の恐れ
があるにもかかわらず車中泊を続ける方々の気持ちはこういうところからも十分に理解がで
きます。

被災地の生活もこれまでの生活とは一変し、最大時は十万人以上いた避難者は、今もなお
一万三千人超の方々が継続して自宅の倒壊等により避難生活を送っています。また、最大
震度4クラスの余震も相変わらず続いています。

県内の高校テニス部活動の現状は、未だその全てを把握できていない状況です。なにしろ、
どの学校も現場では新入部員が入部をして、本格的な活動を始めるといった状況の直前の
時期の震災、ならびにその後の長期休校となった次第で、熊本市内の高校は、ようやく昨日
10日(火)から再開したような状況です。もちろん公営テニス施設のみならず各学校施設も市
内の学校を中心に校舎や体育館、そしてテニスコートも重篤な被害を受けている状況にあり、
今までのような「当たり前の学校生活」という状態ではなく、まずは登校後は生徒たちの心の
ケアと避難訓練から取り組み、授業はできる教科だけを優先的に行っていくような学校もあり
ます。校舎の損壊により合併授業や時間差の学年別登校という形態を取らざるを得ない学校
も多数あり、これまで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなくなった現実がそこには
あります。

県内の公営テニスコートは、県高校総体の主会場のひとつであるパークドーム熊本(室内オムニ12面)は今年度の供用をあきらめざるを得ない状況です。来年度も再開のめどが立ちません。同じく総体会場の益城町テニスコートはコートサーフェスが大きく波を打ち、とても使える状況にありません。他にも同様の被害を受けたテニスコートも熊本市内にあります。幸いパークドーム熊本に隣接する屋外コート16面+14面の30面は本日から供用再開となりましたが、同じく隣接する陸上競技場が支援物資集積場と避難所になっているため、交通渋滞を生み出す高校総体での使用が禁止されました。よって県高校総体は熊本市、益城町以外での分散開催となり、1日で最大5会場で開催、会場間の距離は最大で100kmを超えるという前代未聞の大会となります。

県内高校テニスへの影響はこれから徐々に明らかになると思います。これまでにいくつか耳にした状況では、被災によりテニス道具を失った高校生もいると聞いています。高校部活動を断念する生徒数も増える予測もあり、規模縮小の可能性が十分に考えられます。

しかし、私たち本県高体連テニス専門部はテニスを愛する高校生のため、テニスに興味を持ってきている高校生のため、何らかの形で関わっていただいている皆様のために、できることから頑張っていこうと意を決している次第であります。街頭には『がんばる県 くまもと県 負けん県 立ち直る県』という熊本弁を使った文字が見られます。そのような気持ちで復興に取り組んでまいります。

地区予選も終え、いよいよの府高校総体を控えてお忙しい中に、気にかけていただきまして、誠にありがとうございました。今回温かいお気持ちをいただきました貴府高体連テニス専門部、高校テニス関係者にもよろしくお伝えいただければ幸いです。今回送っていただきます義援金は、本県高体連テニス専門部の復興のために使用させていただきます。

敬具

平成28年5月11日(水)

熊本県 秋吉博之